



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	わりと「縄文」に疲れてるアイヌ
Author(s)	北原, モコットウナシ; 堺, 由香; 富菜, 雄介
Citation	北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット, 15
Issue Date	2026-05-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99469
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	book
File Information	99469.pdf



わりと「縄文」に疲れてるアイヌ



aynu
teetawanoankur
kanpinuye cise
kapar kanpisos
15

北原モコットウナシ・堺由香・富菜雄介

北海道大学アイヌ・先住民研究センター
ブックレット 第15号

わりと「縄文」に疲れてるアイヌ



北原モコットウナシ・堺由香・富菜雄介

北海道大学アイヌ・先住民研究センター
ブックレット 第15号

目 次

序文ー「縄文疲れ」とは……………	4
「でもアイヌって縄文だよね」……………	11
「でも縄文てスゴいでしょ」……………	14
コラム 1 「世界でも類を見ないほど長い」は、期待から 生まれた表現……………	18
「でも縄文の精神文化を継いでるよね」……………	20
「DNA に刻まれた記憶が」	
「土偶は精神的な遺物だよ」	
「でも岡本太郎だってそう言ってるよ」	
「でも縄文まで遡れば一緒だよ」……………	24
「でも私も顔や体毛が濃いよ」……………	27
「決定版日本顔」ってどんな顔	
DNA で解決？	
コラム 2 DNA で「民族」がわかる、の虚構 ……	32
「でも前世でアイヌだったよ」……………	43
「シャマン」？といますと？	
前世がアイヌだと何さ	
ふりかえりと変化……………	51
ブックガイド……………	55

序文ー「縄文疲れ」とは

大きな書店や書籍の通販サイトには「縄文文化」「縄文人の思想」「縄文語」などについて書かれた書籍が並びます。また、国内各地で、毎月のように「縄文」を冠したイベントが行われ「縄文ファッションショー」や沖縄・アイヌの音楽を流す「縄文音楽祭」などがあり、あるいは「縄文サーモン」の放流など、なぜそれが「縄文」なのか謎なものも含め「縄文」が付く言葉も次々と生まれています。「縄文」は人びとの関心を呼ぶキーワードなのでしょうし、自治体イチオシのコンテンツを生む源泉でもあるのでしょう。多くは教育委員会などが実施する無償の催しですが、中には有償のツアーもあります。

「縄文体験」の場面を見ると、また「なぜ？」と思わしめるものが目白押しです。例えば、衣装や住居内の内装に19世紀～20世紀のアイヌ文様を使ったと見られるものがあります。展示用に復元された家屋は、アイヌの家屋構造を参考にしていたり（巻末QRコード①）「縄文ファッション」の定番になっている大きな渦巻文様／皮革を使った衣服も、ネイティブアメリカンなど様々な先住民の文化を見て、和民族が想像したものであったりします（QRコード②）。よく見る「縄文人」のイラストも、オーストラリア先住民の写真をモデルに描かれたものが原型になっていたりとか（同前）。

同じ時代に生きている他の民族を見て、何千年も前の生活を考えるヒントにすると、つまり他者を「何千年も変わらない

序文のポイントまとめ

- ・「縄文」イメージは、先住民族文化の寄せ集め

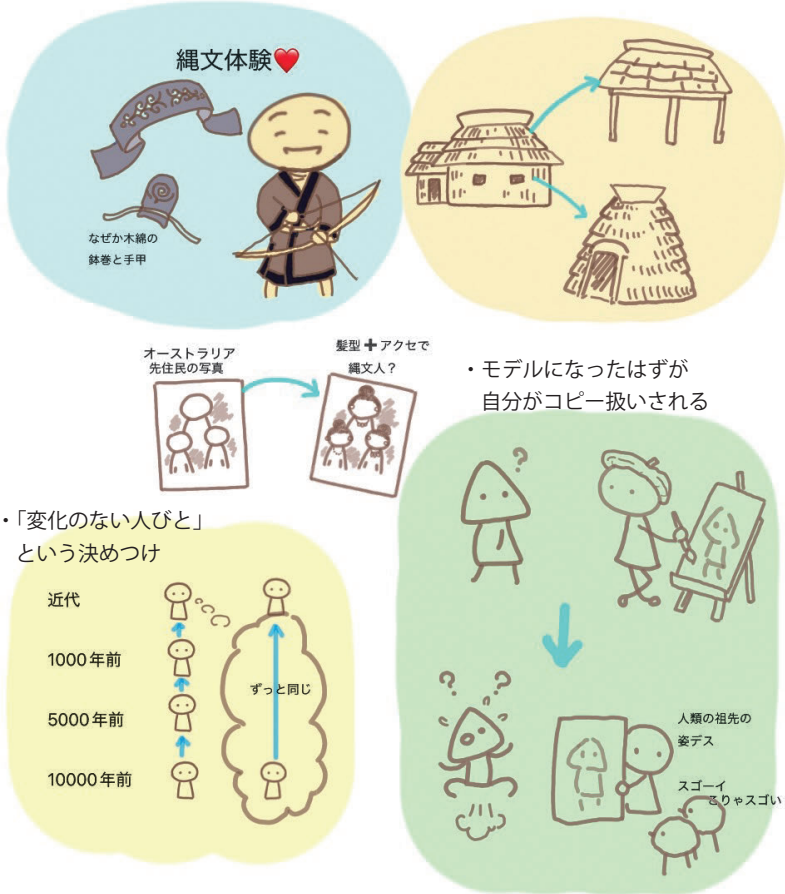


図 北原

人たち＝原始時代の生き残り」と見なすようなものです。日本ではこういう発想が、明治時代にもありました。1904年、小金井良精という研究者は「石器時代」の遺物や遺跡が見つかる土地に「アイノの如き開化の度の極めて低い人間」「低い程度の人間」がいるので「その間に関係があるであろう」と唱えました。

呆れるほどひどい差別的な物言いで、上記の「縄文体験」をプランニングしている人たちも、これを聞いたら驚くかもしれません。21世紀のいま、熱心に「縄文」を語る人たちは、先住民に友人がいるとか、その文化に親愛の情を持っていることもあるでしょう。しかし実を言えば、先住民族の文化の中に5000年前、1万年前の人びとの姿を見出そうとする発想は、小金井と全く変わりません。その「縄文愛」の表現は、相手からすればマイクロアグレッション（たいてい無意識な無礼な振る舞い）や文化盗用、支配の固定化に直結するかもしれません。

先住民族は、今日も植民地主義に立って勢力を拡大してきた国家からの支配と、搾取、差別が続く歴史を生きています。先住民族とは、近代国家による領有の前から住み始めた人々を指す言葉であり、そうした「文明国」「先進国」を自認する人々の歴史と責任を告発する概念でもあります。「縄文」の元ネタにされているアイヌや琉球や台湾、オセアニア、南北アメリカの先住民族といった人々は植民地化という暴力の後に続く生活、「暴力のアフターライフ」を生きています。植民地として支配する／されることは現在進行形のできごとです。それなのに、支配をしてきた人々はそのことに無自覚で「あなたの文化がだーいすき♥」とあって、自分のもののように消費するとか金

銭を得るとか。「縄文」ブームを先住民族の目線から見るとこのようになります。「縄文とアイヌ」というキーワードに思わず反応してしまう人も、先住民族の視点を持てば、「縄文」ブームに疲れている人々との温度差に思いいたるでしょう。

自分たちの過去を想像する材料として他者を利用する、先住民の文化をコピーして「縄文」イメージを作るとは、そもそも差別的な行為です。そうした複製が何十年も続く中で「縄文」イメージの由来が忘れられ、研究者が想像した通りの「縄文文化」や「縄文人」が、まるで本当に存在したかのように受け止められています。すると今度は、モデルにされたはずのアイヌ民族・アイヌ文化が「縄文」の後継者かのように言われるようになりました。それどころか「縄文人」が先住民で、アイヌは侵入者だなどといった主張まで、大手を振ってなされています（当然ながら、研究者が組織する学会はこれを否定しています（QRコード③））。

学問的な関心・好奇心から発したはずの思索も、文化をめぐるマウント取りや同化主義に巻き込まれ、事実を置き去りにし、他者を貶めることにつながる場合もあります。差別を止めるためには差別を知る必要があります、「縄文」が差別に使われることを止めたければ、「縄文 LOVE」が、どのように他者を侵害するのかを知るしかありません。自由に学び、正しく知ることが誰もが楽しめるのが学問の理想です。本書がその実現にむけた1つのきっかけになれば幸いです。なお、「縄文」に「 」を付ける理由については、巻末 QR コード⑦をご覧ください。

2026年5月 北原モコットウナシ・堺由香・富菜雄介

本書のキーワード

和民族：

いわゆる「日本人」といって思い浮かべられる人々。和人も呼ばれる。現代の日本国民のうち、アイヌ、ウイルト、ニヴフ、奄美、沖縄や旧植民地・統治地域など、日本が近代以降に取り込んでいた地域にルーツを持つ者や、ニューカマーを除いた者。自身の民族性を自覚していない場合が多い（問われる場面がない）ことも大きな特徴の1つ。

マイノリティ：

社会的資源や機会、力を奪われ周縁化されている人々。

マジョリティ：

マイノリティの「特徴」を捏造または誇張してネガティブに評価し、社会的資源や機会、力を奪うことで自己を中心に置く人々と、その立場を引き継ぐ人々。

植民地主義：

自国の政治経済活動を、他者の領域まで拡張していく考え方。侵入しようとする土地の人びとの主権の制限や、経済的な搾取をとまなう。現地の人びとの労働力や資源を吸い上げる場合と、自国民を移住させて入植者の社会を作る場合（入植植民地）がある。明治以降の北海道・樺太・千島では、後者の方式が取られた。この場合、支配者は、現地の先住者の存在を否定する、先住者が「人種」的に、あるいは文化的に劣等だと強調するといった差別的な主張をし、相手にも「自分は無価値な人間だ」と思わせることで、支配を正当化・安定化する。

暴力のアフターライフ：

植民地化などの暴力的行為による被害を受けた人びとは、暴力的行為が終わったとしても暴力を受ける前に戻るわけではない。しかし、被害を受けていない人びとにはそのことが見えにくい。被害者の生活が、そうした暴力の影響を抱えながらのものであることを表現した言葉。

文化盗用：

自分とは異なる集団が生み出した文化を取り入れることにより、相手に経済的な損失や集団としての独自性（他との境界）の侵害など負の影響を与えること。他者の文化を同意なく商品化したり、他者のアイデンティティに関わる文化を自分のもののように扱うことなど。アイデンティティの盗用は、究極の植民地化ともいわれる。

負の影響が生じる背景には、両者が属す集団同士の不均衡な力関係がある。

これに対し、支配を受けた者が支配者の文化や生活様式を身につけることは同化主義と強制力が働いた結果であり、文化盗用とは呼ばない。

登場人物紹介

本書はちょっと困った「縄文」ファンの「あるある」な行動と、それを受けたアイヌ民族の反応（もやもや）を、2人のキャラクターのやり取りとして表現します。もちろん、実際の人びとの行動や反応はもっと多様で複雑なので、あくまで考え始めるための入り口になる「誇張したモノマネ」だと思って見てください。

アイヌ民族の歴史や存在を否定する和民族の言説（ヘイトスピーチ）と、縄文ファンの振る舞いは真逆のように見えますが、自分本位で相手のことを考えなくなったときに両者の行動は重なってきます。2人のやりとりは仮想のものですが、様々な実体験をモデルにしています。自分では「好意的」なつもりでも相手が困惑する場面があることを紹介します。


わりと「縄文」に疲れたアイヌちゃん（左）：名前の通り。自分の文化を学び、発信もしている。推しポイントは秘めた怒り。


聖化ちゃん（右）：「縄文」が大好きな和民族。アイヌ民族に好意的だが、相手を特別扱いしすぎる「聖化」的な振る舞いをしがち。推しポイントは頭の土器と鉄のハート。





イラスト：堺

「でもアイヌって縄文だよね」

：イランカラプテ（こんにちは）ー。アイヌ文化サークルでーす。文化の紹介と体験コーナーやってまーす。どなたでもどうぞー。


：イランカラプテー、あなたの心にそっと触れさせてください♪


：えっと…頭のそれ土器ですか？初めましてですよ（なんか距離近くないですか）。


：私、アイヌのことにすごく興味があるんです。思想とか言葉とかも縄文から引き継いでるって聞いて。縄文語すごいー。


：後半ちょっと何言ってるかわからなかったです。


：アイヌって日本のネイティブっていうか、縄文だよね。


：日本語としてよくわかんないんですけど（ていうか早くもタメ口だし）。


：いいよねーネイティブって。リクツじゃないんだよね、心。魂っていうか。そんで大地。私もう感動しちゃって。


：たまにそれ系のことが言われますけど、正直なんのことか。良さげに言ってもらってあれですが、決めつけと馴れ馴れしさヤバくないですか。


：私も実はけっこう縄文人？なんだー。うちの地元も、縄文の遺跡とか多い地域なんで。縄目の土器は出てないけど。


：じゃあ「縄文」じゃないんじゃないか…。というか「うちも」っていうのがわかんない。私は現代人です。


：このTシャツも縄文イベントで買ったんだー。ほらここにもおんなじ文様。


：それはアイヌ文様を入れてるだけでしょ。なんで何千年も前の文化紹介に最近のアイヌ文様使うんですか。


：だってほら、アイヌは狩猟採集とか縄文の伝統を受け継いでるし。

：えっと？今のアイヌは日本政府から狩猟を制限されてます。内地でハンターや山菜取りしてる人も、みんな縄文？

：うん、私たちも一部は受け継いでるよね。でもやっぱりアイヌは縄文を最も色濃く受け継いでるから。奄美や沖縄も、ほぼ縄文人そのものだし。私たちの先祖の姿。感動！

：（言葉通じない…。「縄文好きを見たら逃げろ」って先輩が言ってたのはこういうことか…。）あの一「私も縄文」って言うてみたり「アイヌの方が縄文」って言うてみたり…。「あなたと私は同じ」と言いたいのか。「ちがうよ」と言いたいのか。どっちなの？

：同じっていうか、私たちのルーツだから。特別な気持ちかわいてくるんだよ。

：へ？私とあなたと、いま生きてて同じくらししてるでしょ。私があなたのルーツって…。意味わかんなくて。だいたい「縄文文化」とか「縄文人」とかそんな昔のこと、見てきたみたいに話すの、ちょっとついてけない。縄目の文様が無くても「縄文」だとか、アイヌのことだけじゃなくて「縄文」についてあなたが言うてることもなんだかモヤります。その「縄文」でなんなんですか。

このパートのポイントまとめ

- ・見てきたかのように語られる「縄文語」





- ・縄文はなくとも「縄文遺跡」





図 北原

「でも縄文てスゴいでしょ」

：縄文は縄文だよ。千島から沖縄まで、日本列島に広がっていた私たちの先祖のくらし。世界的に見てもスゴイ文明！


：自分の文化なら、自分で文明とか言うの、はしたないんじゃないですか…。あと「私たち」って誰なんですかね。千島とか沖縄とか明治まで日本じゃなかったし、領土ってコロコロ変わって来たのに、今の日本領辺りに「ちょうど」重なる文化が大昔からあった、それが私たちの歴史だって、話ができすぎじゃないですか？なんだか日本が昔から1つだったと言いたげというか、結論ありきな気がするなあ（メモ①）。


：でもね、縄文文化は世界でも例がないくらい長く安定して続いたんだよ。それに自然と共存して、争いもなかったしっ！


：自然と共存はみんなしてるでしょ。大学の授業では「縄文」といっても西と東とではずいぶん暮らしや道具がちがっているって習いました。1万年もあるから、はじめと終わりでもくらしが変わってるとか。それなのに、同じ「縄文が続いている」って言えるんですか。言い方あれだけど、そう思いたいからそう言ってるだけみたいな…（→コラム1）。


メモ①：「縄文」の範囲とナショナリズム


縄目の装飾が入った土器は、朝鮮半島など、日本の領土よりも広い範囲で見つかる。反対に千島列島や沖縄と「縄文」の関係ははっきりしないなど縄文の範囲と一体性には多くの異論がある。考古学者の岡本孝之によれば、九州や西日本には他とは異なる土器文化があるが、日本という枠組みが広がるなかで「縄文」にとりこまれる範囲も広がってきた。民俗学者の赤坂憲雄は「縄文時代の日本など、存在しない」と述べ「縄文」という言葉がナショナリズム高揚に利用されることに警鐘を鳴らす。


：えー…いや、そうじゃないっていう人もいるし。それにね、「縄文」の造形ってスゴイじゃない。土器とか土偶とかに、シンプルに感動するでしょ？

：造形がスゴイというのは私も思う。スゴイよね。好き。でも、世間的にはそれが日本スゴイにつながっちゃってるから、単純に「スゴイ」と感激して楽しめないなあ。

：ていうと？

：この遺跡のこの土偶が好き！なら良いんですけど、「縄文」というと、大きな一つの地域・文化とか急に主語が大きくなってしまっしょ。それが「日本スゴイ！」みたいになっちゃってるから、苦手です。


：でも、日本人なんだから日本をスゴイと思って良いんじゃないかな♪


：日本スゴイってどういう場面って言われてるか知ってます？日本がスゴイ理由は「単一民族国家」だからだって発言する政治家とか思った以上にたくさんいるんですよ(メモ②)。「縄文」が1つだっていうのも「単一民族国家」というストーリーとすごく近いじゃないですか。アイヌは「日本人」の中に入れられたようで、実は別な扱いになってきたんですよ。そもそも「同じ日本人にする」とってことは、アイヌとして、自分たちは


メモ②：「日本スゴイ」は選民思想+人種主義


日本は、神を祖とする純粋な単一民族からなる(⇔ヨーロッパは血でつながっていない)とする思想は明治20年代に主張された。同じ時期に、混合民族論(日本列島に移住した多くの民族が混ざり合っただけで日本人ができたとする思想)も広まっていたが、戦後になると単一民族論の人氣が高まった。単一民族論は日本の優索性・特殊性の根拠として、政治家がたびたび口に出している(QRコード④)。「民族的な純粋さ」とは血統の問題にもつながる。純粋な者の方が優秀であるとする主張は、「人種によって優劣が決まる」という発想に転じうる。すなわち「日本スゴイ」言説には選民思想や人種主義と同種の危険性がある。


自分たちでいるってことを認めないってことでしょ。しかも「単一民族」とかって、もうアイヌいないことにされてるし。


：あーえー…（あれ？思想強め？）。

：あなたはアイヌ語を覚えなくて、自分の言葉で私に話しかけられるでしょ。私が日本語を話してるのは、祖母の祖母の時代に、日本語が強要されたからですよ。学校ではアイヌ語教えてくれないし。


：あー。えと、アイヌ語って日本語の方言的なものでは…


：違います。ウネノ アン シサム イタク アンキ ワ ネ ヤクン、タネ クイエ ヒ オピッタノ エシエラムアン ア？（同じ日本語を話してるんだとしたら、いま私がいうことをあなた全部わかるかい？）

：それはアイヌ語の祈り？どこか懐かしいような…私の内に響いてくるのを感じる♪

：（無視）だから、そもそも日本と同じだと思ってないし。それなのに北海道までひっくるめて「縄文（日本）スゴイ」で盛り上がるせいで、ますますアイヌのことが見えなくなってないです？

：いや、だからシンプルに縄文の精神性が好きっていうか。

：シンプルに楽しみたいのにそれができないのは、世の中の「日本スゴイ」に巻き込まれてるからじゃないですか。それがなくなれば、ただ単に、自分個人として好きって言えるようになる。

：なんか話がかたいなー。私はそういうしがらみみたいのは気にしないし、自分が日本人とかそんなに感じないんだよね。私は私っていうか。

：今まで「縄文」ってくくってたのに？へー。

このパートのポイントまとめ



図 北原

コラム1 「世界でも類を見ないほど長い」は、 期待から生まれた表現

北原モコットウナシ


「縄文」と括られている文化にも多様性がある。西洋で生まれた考古学の手法を用いるなら、日本の「縄文」はもっと細かな時代や文化に分けることが一般的だとの指摘もある。「世界でも例がないほど長く続いた」時代とは、本来なら分けて考えることもできる時代・文化を、1つの「国」という枠でくくった結果であり、大貫静夫は「日本の考古学者がそのように設定したから」と批判する。旧石器時代から「縄文」への転換期については大まかに3つの説があり、結論が出ていない。そのうち最長の説を取れば「縄文」は1万6千年前からということになる。歴史を古く見積もりたいという心理が働けば、詳細を知らずともこの説を支持したくなる。その背景には、4千年の歴史といわれる中国へのコンプレックスがあるとの指摘もあり「歴史の長さ＝国の優位性」とする感覚があると考えられる。


山田康弘は、「縄文」社会のイメージについて「現世に生きる人々の「まなざし」によって、貧しい平等社会、豊かな縄文ユートピア、階層化社会と、多様に変化してきている」ことを指摘する。考古学者も、自身の生きる時代・社会の影響を受けて思考し、また社会に影響を与えていく。研究活動には、それが「科学」であり「客観的」とあるというイメージがあるが、時代・文化を区分するにも、研究者の主観が入り込むことを避けるのは難しい。


文献資料がない時代を考える材料は限られており、不明


「でも縄文の精神文化を継いでるよね」


「DNA に刻まれた記憶が」


 : でもさでもさ、アイヌも縄文の精神文化を受け継いでるでしょう？


 : 縄文の精神文化。それはどうやって調べたんですか？


 : 狩猟採集から生まれた思想が、深層心理とか DNA に記憶されているんだよ。

 : DNA は生まれ持ったもので、文化って生まれた後に身につけるものでしょ。DNA の中に文化があるわけじゃないですよ。

 : そんなこと無いと思うんだよ。自分でも感じるもん。ああ、遺伝子レベルで縄文と結びついてるなあって。


 : アメリカで育ったある日系人の人にあつたことありますけど、英語はとても流ちょうで、日本語は通じませんでした。DNA で文化が伝わるなら、どうしてこの人は日本語が話せず、私はどうしてアイヌ語を話せないんですか？ほっといても話せるようになるなら、とても助かるんだけど。


 : えっとほら、貝塚ってあるでしょ。あれはゴミ捨て場っぽいけど祈りの場なんだよ。アイヌのイオマンテは、その思想から生まれてきたんだよ。


 : 逆でしょ。アイヌのイオマンテを見て、貝塚の意味を解釈したんでしょ（メモ③）。ものの意味なんて、その文化を知らない人が見たってわかるわけじゃない。自分の経験や知


識に沿って想像することはできても、それはわかったことにはならないでしょ。

土偶は精神的な遺物だよ

 : いやいや、ほら。じゃあたとえば土偶はどう。とっても不思議な造形、装飾だよ。あれは絶対精神的なものだよ。土偶は女神の像で、必ず壊れてて完全なものは無いんだって。女神が死んだ後に、体をあちこちに埋めたら、そこから大切な食糧になる植物が生えたっていう神話を表してるんだよ。

 : それも逆じゃないですか？土偶が神話を表してるんじゃないかって、神話から、想像を膨らませて考えた土偶の使い方でしょ。古い時代のことって詳しく確かめようがないから自由に想像できるけど、想像と事実の区別がつかなくなるってやばいレベルですよ。

 : しっかり観察して考え抜けば、いけるんじゃないかな。

 : アイヌのイクパスイとトゥキ（酒杯）は知ってますか？


 : お酒を飲むとき髭をどけるのに使う！（メモ④）

 : トウキは酒を入れるものだけど、イクパスイはお酒やお

メモ③：貝塚と「霊送り」

河野広道は貝塚の意味について書いた 1935 年の論文で「废物捨場を同時に墓場として使用することは、一般文明人の立場からは 到底考えられない矛盾であって、然しその後アイヌと親しみ、その風俗を知り、彼らの原始的な 宗教思想に慣れるに従って、彼らの废物に対する見方や取扱い方が我々のそれとは全く異なる事を知り、漸く貝塚＝墓場の謎がわかったのである」と述べた。土偶を農耕や女神と結び付ける解釈は以前からあったが、吉田敦彦はインドネシアの神話を「ハイヌウェレ型神話」の内でも最も古い物とみなし、日本の神話にも影響を与えたと考えた。インドネシアの神話が最も古いと考える根拠は、農耕の「発達段階が低い」こととされている。ここにも、自分たちが「原始」「未開」と見なした他者が、太古から変わらぬ生活をしていると信じ、そこから自分たちの過去を想像する発想が現れている。

祈りの言葉を神様に届ける役割をするんですよ。自分の言葉をイクパスイが整えて伝えてくれるんです。

：あっ！そっちね！そっちかー


イクパスイ




散杖＋洒水器



図：北原

：これは仏教で使う散杖と洒水器っていう道具。イクパスイとトウキに形が似てるでしょ。何に使うと思う？

：お酒！届ける！


：仏教だっつってんでしょ。洒水（しゃすい）っていう清めた水を撒いて、祭壇や参列者を清めるんです。飲み物じゃなく。器は、形が残れば後の時代の人でも「何かを入れるもの」だって想像できます。でも、何を入れたかとか目的とか、形に残らないものを「考察」したって、わかるわけない。だから、同じ時代の、自分たちより「原始的」だっと思った民族を眺めて、


メモ④：イクパスイ／イクニシ


イクパスイ（樺太・北海道での呼称）やイクニシ（樺太での呼称）と呼ぶ祭具。和民族は、この祈りの道具を「ヒゲアゲ」や「ヒゲベラ」と呼んできた。こうした呼称にも、アイヌ社会に対する無理解や偏見、軽視が表れている。形状や機能が類似する祭具はシベリアや本州以南にも分布する。


わかったことにしてしまうんでしょ。

でも岡本太郎だってそう言ってるよ


：でも芸術家の岡本太郎だって、柳宗悦だって、縄文やアイヌの作ったものに、本当の芸術性があるって言ってるじゃない。


：自分たちは文明化しちゃって小賢しい存在になった、「縄文」やアイヌは違うって、やっぱり根拠ないし、思い上がりの裏返しに感じます。なんかあの、身勝手じゃないですか？そういうの「聖化」といって差別らしいですよ。ほめてるというより「そうであれ」って言ってる感じ。アイヌだって人の評価を気にして良い物を作ろうとするとか、ふつうにありますって。实用本位で面白さを捨てたものを作るとか。


：いや、ほんとのアイヌ文化はそんな打算的じゃないと思う。


：はい出た。「本当の」のとか言われても。人の文化を本物かとかジャッジするのは、ちょっとどうなんですかねー。無神経？自分の気に入る方を「本物」認定する根拠もわかんないし、どの立場から言ってるのかもわかんないし。


「でも縄文まで遡れば一緒だよ」


：そういう風に線引きをしすぎると、日本が分断されることになっちゃうからさ。差別が良くないのは確かだけど、縄文まで遡ればみんな一緒なんだから。そう考えたら差別もなにもないでしょ。

：同じかどうか、その当時の人の感覚はわからないでしょ。私たちアジアの人間は、それ以外の人からするとみんな同じに見えるらしいですよ。でも私たちの意識は違いますよね。「縄文人」というくくりも、そんなもんじゃないんですか？あと、遡れば一緒って理屈、意味あるんですかね。元がなんであろうと、今ある対人関係は「それはそれ」でしょう？

：そういう風に悲観するんじゃなくて、未来志向で考えてみたらどうかな（メモ⑤）。


：元は同じだから差別をやめようという意見は、差別をする側に向かって言うのはどうですか。差別をされている側に、これ以上何か求めるのはどうなのでしょう。


：それはそうだね。


：それに、同じだから差別する意味がないって言っちゃうと、違ったら差別して良いことになりませんか。


メモ⑤：「未来志向」


未来志向とは前向きな響きの言葉だが、誰が発するかによって意味が変わる。差別の被害を考え、回復の方法を考えるにも、加害側が反省・謝罪をするにも、差別が生じた歴史的経緯を知ることが大切である。加害側がこの言葉を発すると、歴史を知ることや差別の議論を禁ずる効果を持つ。


 : いや、そういうつもりはないよ。


 : 「つもり」の話は良いんです。そもそも、「縄文人」が1つのまとまった集団だったとかいうのも仮定の話ですよ。


 : どうしてさ。つながろうよ。私は、アイヌや沖縄って日本の原点だと思ってるから。

 : 原点てなんですか。さっきのルーツもそうですけど、同じだとか仲間だとか言いながら、私たちが現代人扱いしてくないですか？

 : そんなことない。私たち現代人はむしろ学ばせてもらうべきだと思ってる。

 : んーと、それもアイヌを「現代人」の外においてますよね。同じ同じ言いつつ、そういう風に別物扱いすることが差別でしょう。なのに「同じだから」って言って、私たちは私たちがいること、アイヌとしての仲間意識を保つことも認めてくないですか。ダブスタだし、話し通じなくて疲れます。相手との境界を勝手にないことにしないでくれませんか。

 : そんな。これ見てよ。マタンブシ（文様入りの鉢巻）だっしてしてるし、縄文タトゥーだって自分で入れてみたんだよ（メモ⑥）。私も先祖からの文化を受け継いだんだよ。

 : （…受け継ぐ？）縄文タトゥーとか知らないけど、アイヌの着物とか装束を「縄文」アイテムみたいにされるの違和感しかないです。私たちの文化は、あなたのおもちゃですか。大切なものなんですよ。

メモ⑥：縄文タトゥー

「縄文時代」のタトゥーは「あったかなかったかわからない」としつつ、遺物等から着想を得たタトゥーデザインを、モデルの身体に実際に施すもの。タトゥーをすることで「縄文族」になるのだという。2013年に開始。施術者はマタンブシを締めている。

このパートのポイント

- ・外から見える集団と、内部の意識はちがう

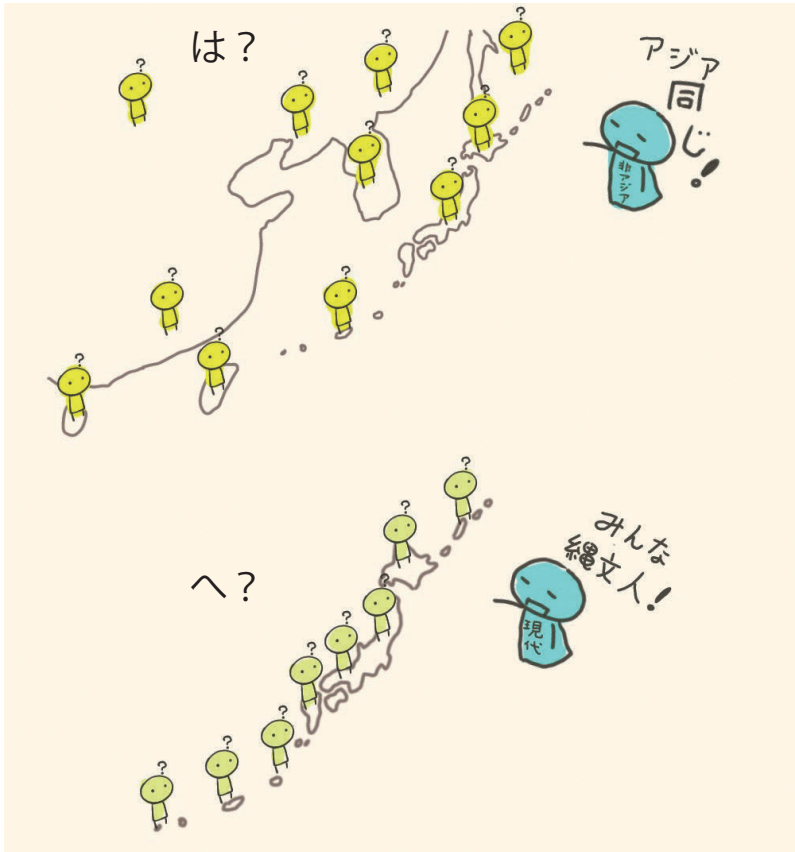




図 北原


「でも私も顔や体毛が濃いよ」

「決定版日本顔」ってどんな顔


：分け隔てするつもりはないんだよ。私も顔とか体毛が濃
いって言われるから、けっこう縄文人やアイヌが入ってると思
うから（メモ⑦）。


：あなたの「つもり」は置いといて（2回目）。アイヌは全
員顔や体毛が濃いいということですか？どう確かめたんですか。

：ネットに書いてあるのを見たんだけど…。本とか。

：それは誰が書いたんですか。どうやって確かめたんです
か。

：書いてたのはアイヌじゃない人…かな。


：120年前に撮られた写真を見たって、アイヌにも和民
族にもいろんな顔がありますよ。いろんな人が行き来して、結
婚して、その結果としてできてきたのがアイヌとか和民族集団
なんだから、昔からいろんな見た目の人がいたに決まってる
じゃないですか。


：えー、ハーフの人もいたと思うけど、純粋な人の方が多


メモ⑦：私も濃い

1986年9月から10月にかけて、中曽根康弘首相（当時）が数度にわたり、アメリカの非白人への侮蔑を含む文脈（知的水準発言）で、日本は単一民族国家だと発言した。「関東ウタリ会」などがこの発言に抗議し、国会でも質問が出ると、日本は混合民族だという趣旨の説明をし、自身も眉や髭が濃いことからアイヌの血が入っていると応じた。アイヌと体毛を結び付けることは否定的ステレオタイプであり、同時に体質と民族性を混同する誤りである。更に、この場合は日本に混ざって民族としては消えたという存在否定にもなっている。


かったと思う。


：あなたは、そうは言っても、自分が「日本人」から外れてしまう心配とかはしたくないんですね。だから「自分は周りとちょっと違うかも？」って空想して楽しめる。それはあなたがマジョリティだからでしょ。


：…というと？

：あなたはどんな顔してようが、どんなくらししてようが、「日本人らしさを見せてみる」とか「本物だと証明しろ」とか言われなくていいでしょ。「体質が日本人らしくないからニセモノだ」とかさ。


：え、いやだって。日本人ていうか私は1個人だから。


：私たちだって個人だけど、十把ひとからげに「本物」か「ニセモノ」か値踏みされるんです。「濃いからアイヌだ」って決めつけも嫌な思いする人がいるし、私とか、私の先輩とかは、顔が薄いからアイヌらしくないって言われて嫌な思いするんですけどね。人がどんな顔してようがほっといて欲しい。


：そりゃ、純粋性がうすれちゃった人は、確かに苦勞するかもだけど。


：(怒) 他と接触が無い純粋な集団なんてどこにいるんですか。本州にだっていろんな人が移り住んでるでしょ。定義っていうのは事実を見てするものですよ。純粋だとか、事実には合わない定義を先に作って、それに「合う・合わない」なんて云々するのは、意味がありますか。それで知りもしない人から自分の感覚とかルーツを否定される気持ちってわかりますか？


DNA で解決？


：うーん、そういうときはさ、DNA を見ればはっきりするんじゃない？ DNA はうそをつかないから。

：詳しくは知らないけど、昔からいろんな地域の人が行き来して交わってを繰り返してきたんだから、遺伝的にもいろんな人がいるんじゃないんですか。和民族だって、DNA がみんな同じなんてことないでしょ。じゃあ、あなた DNA を調べて自分の民族性を決めてるんですか？ 調べてみたら和民族じゃありませんでしたって言われて、納得できますか？


：だって、医大の人が、DNA を調べれば縄文までたどれるとか、先住性を証明できるって言ってたし（QR コード⑤）。


：DNA と先住性は関係ないでしょ（QR コード⑧）。謎に「DNA で解決」っていう人多いんですけど DNA って民族性について言えば後出しルールですよ。


：おおう？


：だって、江戸時代から「誰それはアイヌ」「誰それはアイヌじゃない」って、日本側からだって線引きしてるんですよ。武士だとか漁夫だとか、北海道にやってきた和民族男性とアイヌ女性のあいだに子供が生まれたって話はよくあるんですけど、その子はアイヌとして扱われていろんな権利を制限されたんです。DNA で言えば父親のものも継いでいるけど、もちろんそのときはそんなこと言わなかったんですよ。


：武士や漁夫は、本州の方にもどるんですよ。子供は？


：連れて行きませんよ。だから、血統だとか云々の話じゃない。和民族が境界を越えてくるのはオッケー。こっちから和民族の領域に入るのはとにかくダメ。DNA とか関係なし。


 : たしかに。今になって「DNAが」とかいうの変だね。武士の子だってはっきりしても日本には来させなかったんだ…。

 : アイヌとの間に子が出来たって「本当の家族」には言えなかったんじゃないですか。中絶させることだって普通だったみたいだし。


 : さ、さいてえ…

 : ところでヨーロッパでは、自分の先祖は「ケルト人」だとか「バイキング」だっという人がとても多いんだそうです。

 : え、かっこいい。いいなあ。

 : かっこいいイメージありますよね。それが日本では「縄文人」とかアイヌになってるんじゃないんですか。自分は「〇〇っぽい」って言いたい人は、なんかそういう「特別感」？に憧れるんじゃない？

 : …

 : あなたが、自分がアイヌに似てるとか、「きっとDNAが同じ」とかって言っても、世間からの見え方が変わるわけじゃないでしょ。どうしたって、あなたは日本の中では有利な集団の一員。その立場はキープしたままアイヌっぽさアピールして、でもやっぱりやめよっかな、とかが自由にできるじゃないですか。アイヌは「じぶん和民族かも」って言ったって、受け入れられませんよ。気分でマイノリティになってみせたりやめたりって、それもあなたたちの特権ですよ？明日やめられるアイヌごっこで楽しんでるって、私たちから見たらすごく調子いいなあって思っちゃいますう。

 : 私にはできるけど、他の人にはできないことがある…

 : うん。さて、「ルーツはDNAでわかる」と言われると、

なんとなく科学的で、はっきりした答えが出るように感じますよね。でも実際には、DNA でわかることは限られていて、それをどう読み取るかにも注意が必要みたいです。私もちゃんと知らないで、DNA 解析で実際にわかることと、わからないことを整理したコラムを見てみましょう。

このパートのポイント

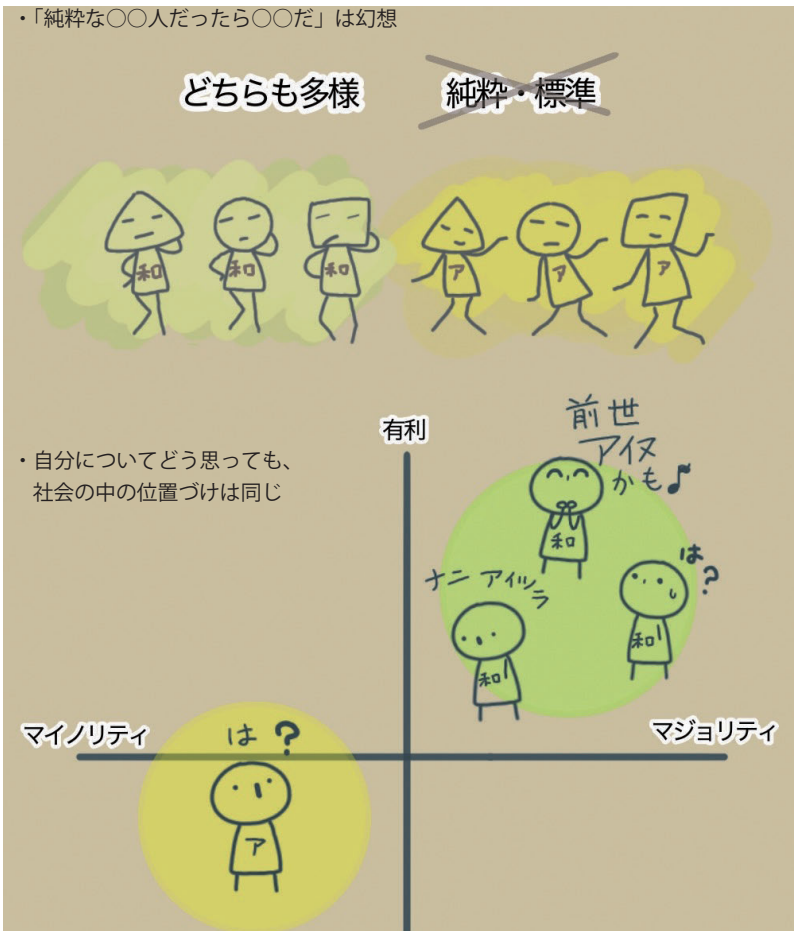


図 北原

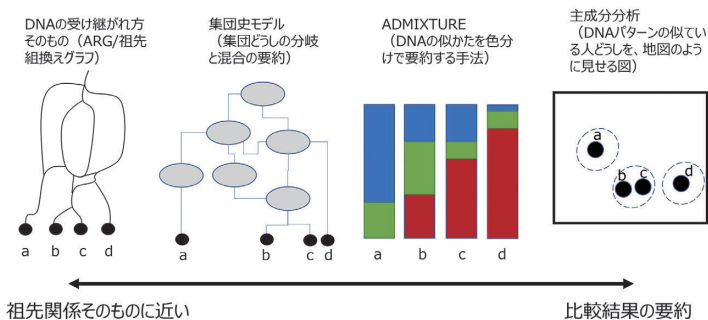
コラム2 「DNA」で民族がわかる、の虚構

富菜雄介

DNA 解析は強力な手法であり、親子関係の判定では高い精度を示す。だが、そのことから「祖先も同じように一義的にわかる」と考えるのは危うい。親子鑑定は、ごく近い関係について限られた候補を比べる検査であるのに対し、祖先推定では、世代をまたぐ DNA の組換え、観測できない祖先の多さ、古代 DNA 標本や現代集団の偏り、比較対象の置き方など、多くの条件が結果に影響する。少なくとも、多くの市販の祖先推定検査や集団遺伝学的解析が直接見ているのは、「あなたの祖先そのもの」ではなく、DNA 上の多数の目印や区間のパターンが、用意された見本集団（比較の基準として用意された DNA データの集まり）や古代標本のどれにどの程度近いか、あるいはその近さを前提とした集団史モデル（集団がいつ分かれ、どこへ移動し、どのように交わったかを、遺伝データなどをもとに説明するための仮説的なモデル）にどのように当てはまるか、という相対的な比較である（図 1）。

図 1 は、a～d の四つの個人 DNA サンプルを例として、祖先関係や集団史をどのように表現しているかを段階的に示したものである。左から順に、DNA がどのように受け継がれてきたかという理想的な系譜過程に近いイメージ、集団の分岐や混合を表す集団史モデル、その比較結果を成分比として要約した図（ADMIXTURE）、さらに似た人どうしを近くに配置して見せる図（主成分分析）を並べている。

左側の図も含めて、ここに示されているものはどれも a～d がもつ家系図上の「祖先全体」を表したのではなく、遺伝データから言える範囲での祖先関係や集団史を推定・整理した表現である。しかも、その見え方は、どの古代標本を使うか、どの集団を見本・比較対象とするか、一部の目印だけを見るのか、ゲノム全体にわたる情報を使うのか、どの統計手法を選ぶのかだけでなく、どの集団をどれだけ比較に入れるか、その集団内の多様性がどれくらいか、近い血縁の人が偏って含まれていないかによっても変わりうる。つまり、結果を正確に解釈するには、データの種類、



a, b, c, d : 比較している4つのサンプル

図1 「DNA 祖先推定」の多くは、「祖先そのもの」を直接示すものではなく、DNA 比較にもとづく要約である

多くの市販の祖先推定や集団遺伝学的解析は、想定される DNA の受け継がれ方そのもの (ARG /祖先組換えグラフ) を直接みているわけではなく、実際の集団史そのものをそのまま示しているわけでもない。むしろ、解析対象の DNA を見本集団や古代標本と比較し、その近さや、想定した集団史モデルへの当てはまりを、近似や要約として図にしている。主成分分析や ADMIXTURE などは、いずれも遺伝データを異なる仕方で要約したものであり、結果の見え方は、比較対象、データの種類、統計手法、ラベル付けによって変わりうる。したがって、図に現れた集団名や色分けを、そのまま「祖先そのもの」や「民族の本質」と読むことはできない。

出典 : Mathieson・Scally (2020) をもとに富菜改変。CC BY 4.0。

● のうち、主に常染色体（性別を決める染色体以外の染色体）
● の情報を中心とした祖先推定の話である。母から受け継ぐ
● ミトコンドリアDNAや、原則として父から息子へ伝わるY
● 染色体の解析もあるが、これらが見ているのはそれぞれ母
● 系一本、父系一本の系統にすぎない。細胞核に入っている
● DNA全体（核ゲノム）を使う解析のほうが情報量が多いが、
● それでも主として分かるのは、比較対象との遺伝的な近さ
● や、その背景にある集団史の一部であり、その人の祖先全
● 体や民族的帰属そのものが、この解析だけで決まるわけ
● ではない。

● では、アイヌと縄文文化期に日本列島にくらした人々（以
● 下、便宜的に縄文人と書く）の遺伝的な関係については、
● 何がどこまで言えるのか。これまでの研究では、現代の北
● 海道アイヌ集団は、歴史の中で他集団との交わりを経なが
● らも、縄文人、とくに北海道縄文系を主要な基盤とし、強
● い遺伝的近縁性を示すことが繰り返し報告されてきた。た
● とえば、Adachi et al. (2018) はミトコンドリアDNAに基
● づく研究であり、江戸期の北海道アイヌが北海道縄文の母
● 系を保持しつつ、周辺集団との混合も受けてきたことを示
● した。礼文島の船泊縄文人を扱ったKanzawa-Kiriyama et
● al. (2019) や、本州縄文人を扱ったGakuhari et al. (2020)
● の、核ゲノムの比較研究では、北海道アイヌを含む複数集
● 団との比較を通じて、縄文個体と現代の北海道アイヌとの
● 強い遺伝的近縁性が支持されている。他の先行研究も、北
● 海道アイヌ集団と縄文集団との遺伝的近縁性が強いという
● 大枠を概ね支持している。ただし、縄文人骨のデータも「縄

● 文人全体」をそのまま代表しているわけではなく、限られ
● た時代や地域のサンプルに基づいて見えている一部の姿で
● あることには留意したい。なお、ここで問題になっている
● のは、「アイヌが縄文人といつ分岐したか」という単純な
● 話ではなく、縄文集団からの遺伝的寄与がどの程度現在ま
● で残り、その後どのような混合が起きたか、という集団
● 史である。これまでの研究は、現在の北海道アイヌ集団の
● 遺伝学的な背景を、北海道縄文集団からの連続性を基盤に、
● 北方系集団や本土日本系集団との接触・混合を含む複雑な
● 過程として理解することを支持している。

● 　ただ、これはあくまで集団史についての話であって、個
● 人について、比較に使われた古代標本そのものが（同じ集
● 団の出自であるとしても）自分の祖先だと確定できるとい
● う意味ではない。もっとも、DNA 上の目印や区間のパター
● ンの類似度は、広い時間的・地理的なスケールでは、祖先
● 集団とのつながりについて有益な手がかりになりうる。あ
● る広域の見本集団に似た DNA 断片が見つければ、過去数
● 百年から数千年のどこかで、その集団に由来する遺伝的な
● つながりがあった可能性は高い。とはいえ、それでも
● DNA だけから、個人レベルで祖先集団とのつながりを一
● 義的に確定できるわけではない。

● 　図 2 では、家系図の上で自分の祖先にあたる人と、現
● 在の自分の DNA の中に実際に痕跡が残っている祖先とは
● 一致しない、ということを示している。親は各世代で
● DNA の半分ずつしか子に伝えないため、世代が古くなる

ほど、その祖先に由来する DNA が現在まで残っていない場合が増える。すなわち、仮に家系図の上で祖先にあたる人物がいたとしても、その人に由来する DNA 断片が現在まで残っているとは限らない。

私自身、国内外の複数の市販遺伝子検査キットで祖先解析サービスを試したことがあるが、各社の結果を比べると、核 DNA に基づく大まかな祖先・集団推定（『あなたの DNA は〇〇集団が XX%』という表記）の大部分は、おお

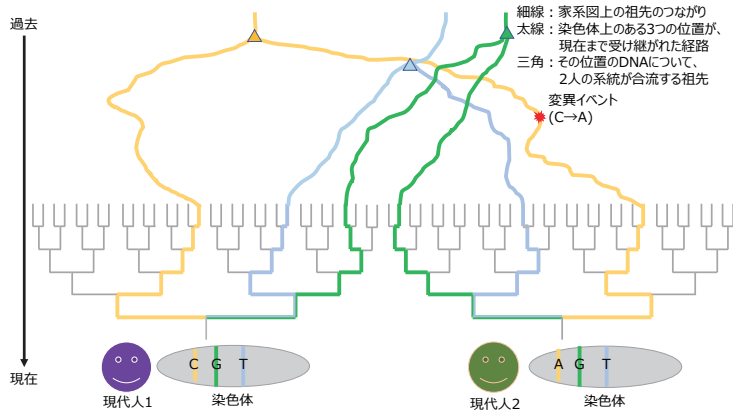


図2 家系図上の祖先と、DNA に見える祖先は同じではない

系譜学的祖先と遺伝的祖先の違いを模式的に示した図。細線は、2人の現代人について、家系図上の祖先のつながりが過去へ広がっていく様子を表す。これに対して、色の異なる太線は、染色体上の3つの位置が現在まで受け継がれてきた経路を示している。実際には DNA は1塩基だけでなく周辺の区間として受け継がれるが、この図ではその区間を代表する位置として示した。三角は、それぞれの位置について、2人の系統が合流する祖先を表す。DNA から直接たどれるのは、家系図全体ではなく、その中で実際に現在まで受け継がれた一部の経路にすぎない。しかも、DNA は受け継がれる途中で組換えによって混ざり合うため、位置ごとにたどる祖先が異なる。したがって、家系図の上で祖先にあたる人物がいたとしても、その人に由来する DNA が現在まで分かりやすい形で残っているとは限らない。

出典：National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine (2023) を参考に、内容を簡略化・再構成して富菜作成。

え、同意と来歴が明確で、十分な人数と代表性をもつアイヌ集団、および相対的な位置づけを比較するための周辺集団・他集団の比較データが必要になる。もっとも、そうした比較集団の中に、その人の家系に直接対応するサンプルが含まれているとは限らない。しかも、母系や父系の一系統だけを見る方法では足りず、全ゲノム規模で、どのDNA断片をどの集団とどれだけ共有しているかを、DNAの共有断片の長さまで含めて慎重に調べる必要がある。そのうえで、もしそうした厳しい条件を満たしても、言えるのはせいぜい、「その人の家系の中に、現代アイヌ集団や歴史的アイヌ集団、あるいはそれらに近縁な集団につながる祖先がいたことが、遺伝学的に支持される」というところまでである。

重要なのは、民族的帰属は、養子縁組や婚姻、共同体との関係、自認と承認を含む問題であり、DNAだけで決まるものではないということである。したがって、「DNAでアイヌかどうかわかる」という言い方は、科学的にも社会的にも単純すぎる。DNA検査は、アイヌとの遺伝的な関係を補助的に示すことはありえても、アイヌ民族であることの決定的な証明にはならない。

遺伝データから言えることの限界を明確にする必要があるという点は、Mathieson & Scally (2020) でも整理されている。そこでは、系譜的祖先性（家系図上のつながり）、遺伝的祖先性（いまの自分のDNAに受け継がれて残っているつながり）、遺伝的類似性（比較しているDNAパターン同士の近さ）がしばしば混同されること、解析法やデー

このパートのポイント

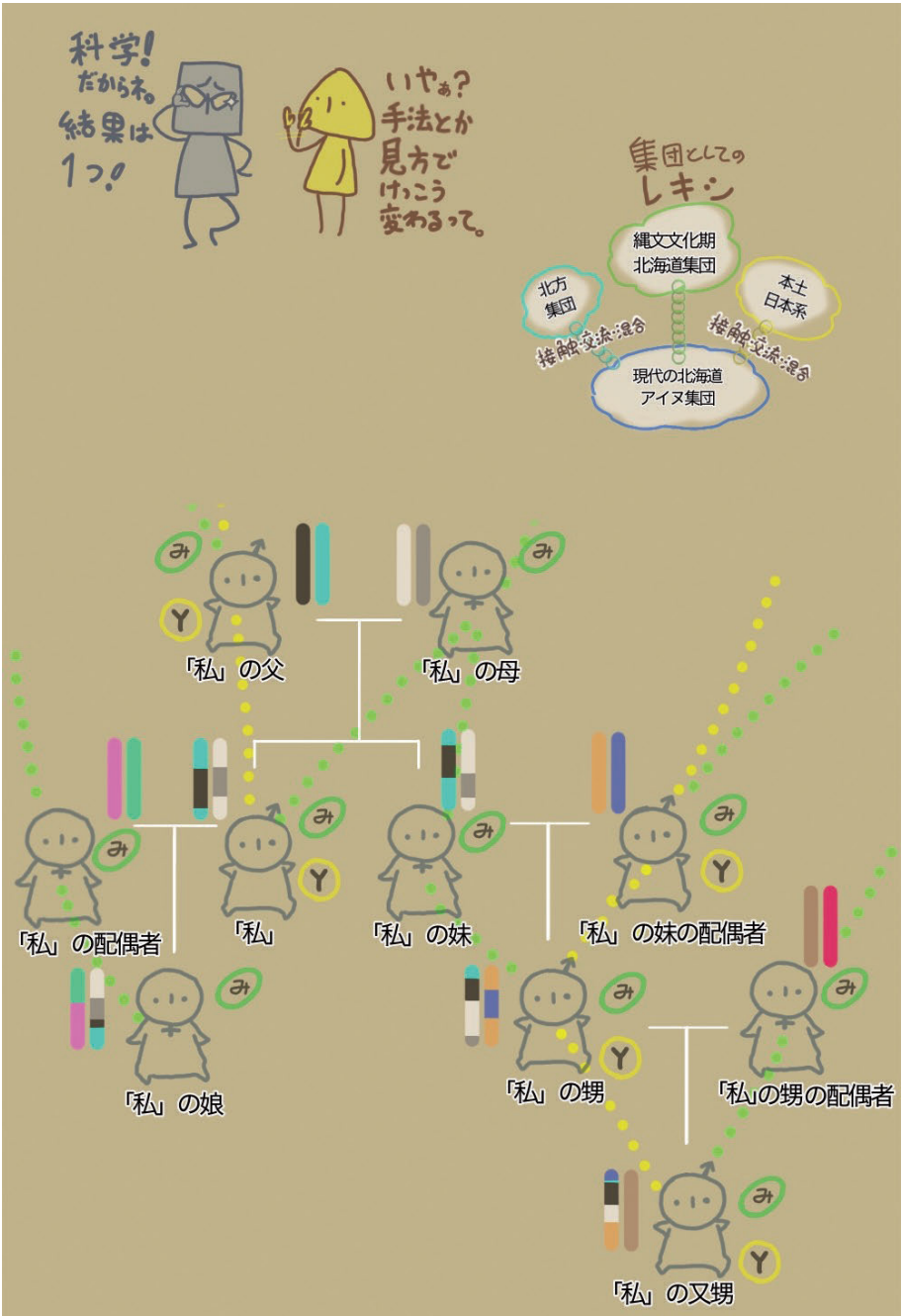
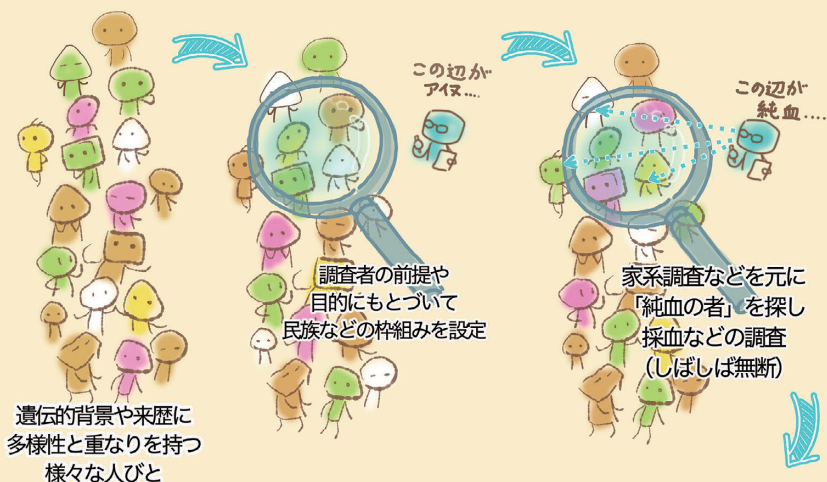


図 北原



この人、アイヌ? ...
 わかるのは
 ※選んだサンプル群に見られる傾向
 ※それが集団全体の傾向とは見なせない
 ※民族的帰属はDNAだけで判断できない

こんな人 出ました
 先に選んだデータ群から傾向を抽出 (属性を発見したようで実は付与する面がある)

本当にアイヌならDNAのカタンに証明できんぞ

ハイ..民族的帰属のカクニンですか? じゃ、前もってあなたの全ゲムデータを用意いたさない...


あなたの民族のDNAデータサンプルと七重のDNAサンプルを比較して、FPIに似たようなリソソグロソリも...


暴言は現実を踏まえない & 責任も取らない


図 北原


「でも前世でアイヌだったよ」


「シャマン」？といたしますと？

：んー。DNAについてはちょっとわかった。ところで、これは誰にでも話してるんじゃないんだけど。じつは私、前世でアイヌだったの。


：（出一た一、前世一）んーと、それはどういうことですか？


：あのね、初めて観光地に行ったときにね、文様入りの品物をみたときにすっごく懐かしい感じがしてね。自分でも不思議なんだけど、アイヌの歌とかも初めて聞くのにとっても懐かしくてね、涙がもうブワッて…


：あ、もう大丈夫です。


：それでね、お友達がとても頼りにしてる霊能者の人にね、特別に相談できたんだけどね、そしたら前世がアイヌの酋長っていうのかな？シャマンの人の娘だったのが見えたって言われてね！これはそのビジョンをイラストにしたものなんだけど


：ん、もうほんと大丈夫。そのシャマンて何する人ですか。


：あのね、こう両手を天に向かって伸ばして、空と大地の聖霊に呼びかけたり自分の魂を飛ばしたりしてね、感謝と祈りの心を伝えて、それでそれで部族のために祈って、部族を率いてね。


：スリーアウト！（何でこの手の話って身分高めなんだろう）


：え？いや、まだ続きがあってね、ここからがすごいんだけど、私が北海道に来たのは、その前世の縁でね、アイヌの神々を救うためにね、呼ばれたんだってことがわかってね。


：この話、NGワードが多すぎて、聞いててしんどいのでもう勘弁してください。


：え？いやこれは、前世の私の声を霊能者の人が聞いてくれたものでね

：聞いたって、日本語で聞いたんでしょ。不思議じゃないですか。それで、酋長ってふつうに言ってますけどね、それ辞書で引くと「野蛮人のリーダー」って書いてますよ。部族は「原始民族、未開民族の単位」って意味。例えば日本族とか〇〇県の部族とか言われたら嫌な感じするでしょ。そういう言葉を、他の人にもふつうに使わないでほしい。首長にするとか、言葉選びも更新していきましょ？

：えー…だって、アイヌなんだからさ、やっぱりちょっと特別な部族でしょ。私は好きだけど、日本に比べれば不便で発展してるとは言えないし…


：いつの話なんですか。今の日本やあなたのいう便利なくらは、アイヌも参画して作ってるんですけど。それと、シャマンていうか、アイヌ語では占いとか病気治したりするお祈りのこと、トウスって言うんですよ。アイヌのトウスでは魂を飛ばしたりしません。首長でもないし天に手を掲げません。

：いやほら、よくあるしょ。こうやって体から魂を解放してっ。「オオオー！」とか「長のお告げだー」とか。


：（無視）あなたが言ってる神への感謝とかは、トウスとはちょっと違って普通の人がやるものです。だれでもやるの。それにね、首長はコタンコロニシパとかコタンコロクルとかかって言って、トウスする人とは別です。


：ええー、でもやっぱさ、神の言葉を聞いたりして部族を


率いるってよくあるじゃない、卑弥呼とかさ。


：よそは一よそ、うちは一うち。人間の文化って、似てもいるし個性もあるしで多様ですよ。たまたま知った文化がそうだからって、ぜんぶ一緒にならないでしょう。占いとかの似たようなことをする仕事に見えたって、その地域の中でその人がどういう立ち位置にいるかとか、どういう思想になってるかとか違ったりするんだから。あなた、前世の話で盛り上がってる割りには現実のアイヌのことを全然知らずとしませんね。自分の好みの話をしたいだけで、アイヌどうでもいいんでしょ？

前世がアイヌだと何さ


：でも…前世が…


：それで、前世がアイヌであなただけ何したいの？


：やっぱりね、虐殺とか悲しい歴史があったでしょ。これも縁だから、アイヌの神とかね、昔のアイヌのために祈ることが私に与えられた役割なんだなって。そうゆったらアイヌのお友達も共感してくれて、一緒に祈ったりとかもしてるんだよ。そうしてると、とても安らいで、一つになれたって感じるんだ。だから、このアイヌの心を他の人にも伝えていくことにしようと思って。

：アイヌのお友達ね。そういうの好きな人もいますよ、そりゃ。アイヌだっていろいろなんだから。その人と話が合ったからって、アイヌ全員がそれでOKだと思わないで欲しいっていうか、少なくとも私のところにはそのノリで来ないで欲しい。アイヌの心っていうけど、あなたの話の設定、雑で穴だらけだし。ただの不勉強。


：でも、前世の記憶が…


：私は、あなたの前世についてはわかりません。否定も肯定もできませんが、あなたの語る「アイヌ文化」は私たちの文化とはズレてるから、それを広めるとかやめて欲しいです。


：文化は変わっていくものだから♪


：前世の記憶を話してるんでしょ？前世がアイヌだと言って、まるで今の自分もアイヌの一員みたいな感じに話してないですか？その割には、酋長だの部族だの特別で神秘だの、アイヌを下に見てヘンテコ扱いするようなことばかり言ってて。それは、どこからどう見ても和民族目線じゃないですか？


：ちがうの。ぜんぜんそういうつもりじゃなくて♪

：あなたの「つもり」の話はしてません（3回目）。私が不快だと言ってるんです。全私が。それに、アイヌの神様を救うとかも、やっぱり普通に失礼でしょ。あなたがどういうつもりだろうと、人が大事にしてるものに口出しや手出しをするもんじゃないですよ。あなたが本当にアイヌを尊重したいのなら、相手の意思を大事にするものでしょ。「こう考えたけどどう？」って、相手の考えを聞かなきゃ。

：あー。そうだよ。じゃあ、アイヌの心を人に伝えていい？


：嫌です。


：でもアイヌのために…前世はアイヌだったのに…


：何度も言うけど、あなたの前世については関知しません。だって確かめようがないもん。私にわかることは、知らない人が来て、私に確かめようがないことを言って「私もあなたも同じ」って言いだしてるってこと。しかも、カムイのことを軽い


感じで語ったりとか。あなたは「役割」を果たすことにとっても浸ってるようだけど、それって現実のアイヌにとって何になるの？自分がしたいことを相手が望んでいることみたいに置き換えちゃだめですよ。


：私は、あなたよりアイヌの心を大切にしてる！


：あなた前世がアイヌなら、その子孫は今も土地を失ったまま「お前たちこそ侵入者だ」とかって移住者から侮辱されたりして、出自を明かせずにくらしてますよ。それはどう思います？


：たしかに悲しい過去があったから、祈りの力で供養しようかと。

：今の、生きてるアイヌの話です。あなたアイヌの祈りとかってアイヌ語で唱えるんですか。


：えーそこまでは…だって大変だし。


：それでいい人はいいでしょ。私は自分の言葉だから取り戻したいし、自分の親とか、ばあちゃん、じいちゃんがバカにされてきたことを「もう済んだ話」みたいにされたくないし、私や友達が差別されてることを本気で気にしなきゃいけない。そういう現実のアイヌのことはどう思ってるんですか。


：今は差別も減ってきてるでしょ。昔は悲しい歴史があったから。だから祈りを…。


：私としては祈られても…。祈るのは自由だけど、それで何か済んだとか解決した感じを出されるのはほんとに困惑しかありません。あとね。あなたは、その「役割を負った」とか、誰かに選ばれたなんか特別なことっぽい感じで言いますよね。盛り上がってるとこ悪いですけど「前世アイヌちゃん」て世の

中にけっこうゴロゴロいます。ネットで「アイヌ+前世」で検索してみたらわかりますよ。


：え…私と…同じ運命の人が？お話ししてみたい…！

：(脱力)「前世が」って言ってる人も、辛いことがあって癒しが欲しいんだらうなって思います。でも辛いことがあるのはアイヌだって同じだから、やっぱりアイヌをネタにしてアイヌ置き去りではしゃぐって違うんじゃないかと。

：あーう。

：参考までに興味深い話をしましょうか。アメリカ先住民の情報を多く載せてる雑誌に「前世でインディアンだった全ての人へ」っていう記事があるんですよ。「私も前世は先住民」という人への批判が書かれています。どこも同じなんです。こういうふうに勝手に先住民になっちゃうことは「究極の植民地主義」って言われてるんです。すごーくわかります。先住民の話の話を聞くじゃなくて、自分が先住民みたいにふるまって語ったりするんだから (メモ⑧)。


：ええー…闇が深いねえ、アメリカ…。

：(脱力) いっしょいっしょ。「私もほぼアイヌ♥」っていう人もいっしょですよ。土地とか産物だけじゃなくて、アイヌとしての立場まで乗っ取っちゃって都合のいい感傷に浸ったり発信したりするんだから。

メモ⑧：ワナビー (なりたがり)


先住民になりきり、重要な精神文化を転用 (他の文化や思想と混ぜ、自分の好みに作り替える) する行為について、北米先住民のグループであるラコタの代表団は第5回ラコタサミットにおいて声明を発し「正当な政治的、法的、精神的ニーズを適切に公的に評価してもらうための闘いにおいて重大な障害となっている」と批判している (QRコード⑥)。


 : えあう… そんなつもりじゃ。


 : つもりはいいんで (以下略)。ちなみに、日本にも「前世がインディアン」っていう人けっこういます。アイヌだけじゃなくて。笑っちゃうけどうんざり。いまの社会のおかしなとこ、先住民がガマンさせられてることを変えたくて社会に伝えても、そういうことに困ってない人たちが先住民を代弁して「これで良いの。自然に感謝」みたいな空気を出されたら、先住民の声がかき消されちゃいますよね。そもそもマジョリティの方が声を出しやすいし聞き取られやすいんだから。


 : えっと、じゃあ私がやってることって迷惑？

 : 少なくとも私が困ってることの解決にはならないですね。

 : でも、私が発信するのを「いいね」って言ってくれるアイヌのお友達もいるし。


 : そうなのが好きなアイヌと遊べばいいんじゃないですか。「アイヌのために」何かしてるみたいな主語デカは嫌だけど、〇〇さんのためにやってるって言えばいいと思いますよ。でも私は迷惑です。ちなみに、今までそういうの嫌がるアイヌはいなかったんですか？

 : あうー……(-_-;) そういえば…連絡が取れなくなっちゃった人がいた…忘れてた…もしかして嫌だったからなのかな…それなら言ってくれば

 : 言ったけど聞かなかったとかじゃ…今だって全然聞いてないし…むしろ、こんなこと言わせないでほしい。

 : あーう。そういえば「前世の話、嫌だ」って言ってたー

 : あちゃー…


 : あーうー


このパートのポイント





図 北原


ふりかえりと変化


 : 迷惑じゃなくなるにはどうしたら良いのお？

 : 相手に敬意を持つ。まずは距離をちゃんとするとか？


 : 気を付けます。

 : あらためて思ったんですけどね、アイヌは日本のルーツだとか原点だとか、それ私たちがほめてるつもりなんですよ。


 : そうでした。


 : だけど、やっぱり対等じゃない、ちょっと雰囲気はいいけど現代人じゃないって、やっぱりアイヌを下におく結果にならないですか。


 : そういうつもりじゃ…でも、そうなのかな。


 : でも祖先が同じとか、前世がアイヌだったとかは「私もあなたも同じ」って意味になりますよね。不平等なのに「同じ」ことにしてしまう。日本がアイヌや琉球やコリアンを同化するときの理屈が「先祖は同じ」だったんですよ。ただし、「ちょっと遅れてる、かわいそうな兄弟」。だから日本が「支援する」といって介入していった。考えたらこれが「同じだけどちょっと前」という言い方のトリックですよ。


 : あー。

 : 「縄文」が好きな人が良かれと思って言ってることって、アイヌを貶めて、アイヌがどうするべきかとか、世の中のルールを決めるのはあくまで日本だっていう感覚を強化してるんじゃないか…。


：だとしたら怖い。でも、ちょっとまだどう考えていいかわからないです。


：趣味の勉強や「縄文」の推し活を楽しむのも平和や平等があつてのことですよ。不平等が気にならないのは知らないからじゃないですか。


：そうなんですかね。一緒に作品作ったりお祈りしたりするお友達はみんな不平等とか感じてなさそうに見えるんです。


：その人たち、パートナーや子供には自分がアイヌだって言えてなかったりするんですよ。アイヌ文化が好きな「だけ」だって言っていたり。


：え…

：自分のことをかくさなきゃいけないのは、日本は「単一民族だ」みたいな空気とか、「日本人」じゃないとわかったら急に変な目で見られるとかがあるから。無知・無関心と偏見ですかね。


：私は差別しませんよ。


：特別視されて変に盛り上がるのも地味にストレスですよ。それに「原点」とか「自然」に近いとかを期待されて困るとか。好意に見えても偏見・差別になることもあるんですよ。それが聖化。ほめてるようで、話を聞かずに相手を批評とか。

：聖化ですか。やめなきゃいけないのかな。

：個人の間で起こる差別はわかりやすいけど「日本人じゃない人がいたら怖い」みたいな世間の「ふつう」の感情って、それが差別的でも気づきにくいですよ。北海道にある「日本」の会社や大学は、アイヌの土地だった場所に立ってるけど、そのことを言わないし知らない。日本社会は日本語でないと学校


に通うことも病院にかかることもできない仕組みになってる。元からあるアイヌ語を制度が使えなくしてるけど、言葉を使いたいと言うと「必要ない」とか我がままだって言われます。マジョリティのそういう感覚が、他の人を黙らせて「いないこと」にしてるんだと思います。マイノリティを知らないだけじゃなくて、マジョリティは優遇されてるってことにも無知ですよ。


 : じゃあ私が日本語でアイヌのお友達と話せてることも優遇？


 : フランスやイギリスに行って現地の友達と会ったら、こうはいかないですよ。


 : それは郷に行ったら郷に従え、だから。


 : 北海道は誰の「郷」なんですか。


 : 日本じゃないの？だって土地の名前も日本語だし。

 : アイヌ語の地名に漢字を当てたんです。明治になる前後に。ね？「前世」がアイヌでも、歴史を知らないとわからないでしょ？

 : ほんとだ。すごくアイヌの文化が好きだったのに。

 : 自分から「魅力的」に見えるところだけを見て、それ以外は知らんぷりしてたら、相手はどう思いますかね。例えばあなたが強盗に襲われてるときに「あなたの服、センスいい！」って言うてくる人がいたら？

 : 正気じゃないと思いますね。

 : 強盗に財布を盗られた後に「縄文まで遡れば彼の財産でもある」とか「不幸な過去にとらわれないで」「未来志向で」って声をかけられたら？

 : わけわかんないです。

👧：冷静に見てみると、アイヌは土地も資源も文化も奪われた状態から回復してなくて「ここにいる」ということさえ言えないんですよね。でもそのことを話すと、たいていの反応はふてくされるか逆切れか、笑顔で「アイヌは先住民ではない！」とか言い出すかの、どれかなんです。

👧：地獄ですね。

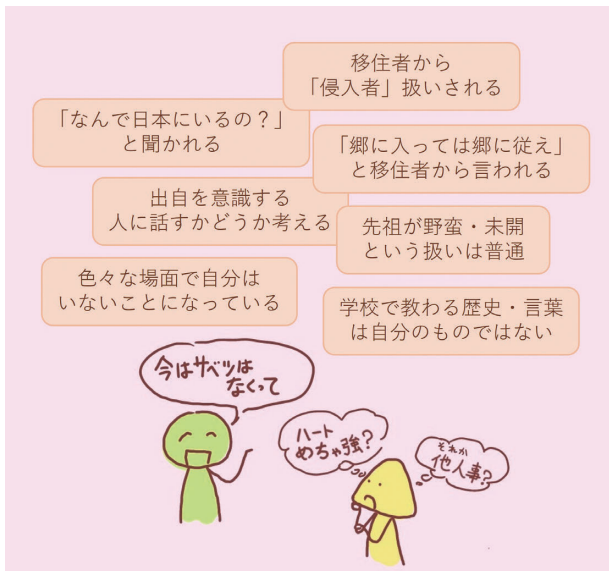
👧：あなたも、歴史や現在を知らないことでその環境を間接的に支えてるとしたら？

👧：地獄です。抜け出したい！

👧：そうですね。不平等があること、自分の立ち位置、自分にできる事を知って行動すれば、この状況も変わります。ここにブックガイドを用意したのでどれからでも読んでみてください。

👧：うれしい！これで前世の因縁を克服できるかも！

👧：まだ言ってらあ…



ブックガイド

本書に書いたことについてより詳しく知りたい方に向け、いくつかの文献を挙げておきます。他にも良い本はたくさんありますが、一つの入り口として活用していただけるよう、手に入りやすいものを中心に挙げました。

赤坂憲雄（2017）「縄文はやがて終焉を迎える」『ユリイカ 4 月臨時増刊号（第49巻第6号通巻699号）総特集 縄文 jomon』青土社。

池田緑（2025）『ポジショナリティ入門』白澤社。

大貫静夫（2010）「縄文文化と東北アジア」小杉康、谷口庸浩、西田泰民、水之江和同、矢野健一編（2010）『縄文時代の考古学1 縄文文化の輪郭 比較文化論による相対化』同成社。

黒沢浩 2012 「ハイヌウェレ型神話と縄文土偶—考古学における解釈の問題」『アジア遊学 158 古事記 環太平洋の日本神話』勉誠出版。

河野広道（1971、初出 1935）「貝塚人骨の謎とアイヌのイオマンテ」『河野広道著作集1 北方文化論』北海道出版企画センター。

佐々木藤雄（2010）「縄文時代の段階区分」小杉康、谷口庸浩、西田泰民、水之江和同、矢野健一編 2010 『縄文時代の考古学1 縄文文化の輪郭 比較文化論による相対化』同成社。

手島武雅ほか（2019）『狙われたアイヌ民族の血液：ケンブリッジ北日本遠征調査隊（1964年）を中心に：資料と研究ノート』。
<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I030144656>

- 山田康弘 (2015) 『つくられた縄文時代 日本文化の原像を探る』 新潮社。
- 吉田敦彦 (1986) 『縄文土偶の神話学』 名著刊行会。
- Adachi N, Kakuda T, Takahashi R, Kanzawa-Kiriyama H, Shinoda K-I. Ethnic derivation of the Ainu inferred from ancient mitochondrial DNA data. *American Journal of Physical Anthropology*. 2018;165(1):139–148. doi:10.1002/ajpa.23338
- Kanzawa-Kiriyama H, Jinam TA, Kawai Y, Sato T, Hosomichi K, Tajima A, Adachi N, Matsumura H, Kryukov K, Saitou N, Shinoda K-I. Late Jomon male and female genome sequences from the Funadomari site in Hokkaido, Japan. *Anthropological Science*. 2019;127(2):83–108. doi:10.1537/ase.190415
- Gakuhari T, Nakagome S, Rasmussen S, Allentoft ME, Sato T, Korneliussen T, Ní Chuinneagáin B, Matsumae H, Koganebuchi K, Schmidt R, Mizushima S, Kondo O, Shigehara N, Yoneda M, Kimura R, Ishida H, Masuyama T, Yamada Y, Tajima A, Shibata H, Toyoda A, Tsurumoto T, Wakebe T, Shitara H, Hanihara T, Willerslev E, Sikora M, Oota H. Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations. *Communications Biology*. 2020;3(1):437. doi:10.1038/s42003-020-01162-2
- Mathieson I, Scally A. What is ancestry? *PLoS Genetics*. 2020;16(3):e1008624. doi:10.1371/journal.pgen.1008624
- National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine. 2023. *Using Population Descriptors in Genetics and Genomics Research: A New Framework for an Evolving Field*. Washington, DC: The National Academies Press. doi:10.17226/26902.

QR コードリスト

- ①「御所野遺跡の復元と実験」
- ②安芸早穂子（2017）「縄文人をどのように描いてきたのか」吉田泰幸、ジョン・アートル（編著）（2017）『Japanese Archaeological Dialogues: 文化資源学セミナー「考古学と現代社会」2013-2016』金沢大学 人間社会研究域附属 国際文化資源学研究センター
- ③日本考古学協会・日本人類学会・日本文化人類学会（2025）「アイヌヘイトに対する 3 学協会会長共同声明」
- ④岡本雅享（2011）「日本人内部の民族意識と概念の混乱」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol.19, No.2。
- ⑤北大開示文書研究会「面談の記録／2017年5月16日、札幌医科大学」
- ⑥「ラコタによる「シャーマン」と「プラスチック」への宣戦布告」
- ⑦堺由香・北原モコットウナシ（2026）「「縄文」という呪文 アイヌのアイデンティティ・文化搾取、歴史否定」『アイヌ先住民研究』第6号
- ⑧太田好信、瀬口典子、辻康夫、松島泰勝、池田光穂、富山一郎、加藤博文、北原モコットウナシ（2025）『先住民民族遺骨問題の解決をめざして：令和2年度～6年度 文部科学省基盤研究A 成果報告』



あとがき

本書は2026年3月に公開した論文「『縄文』という呪文ーアイヌのアイデンティティ・文化搾取、歴史否定ー」（『アイヌ・先住民研究』第6号収録）の内容を元に、説明を簡略化して加筆・再構成したものです。また、遺伝子研究に関する説明を加えることで、遺伝に関する問題の理論的な面を補足しました。

なお、本文はベースとなる部分を北原が作り、堺・富菜の意見を受けて整理しました。コラム1は北原、コラム2は富菜が執筆しました。メインキャラクターのイラストは堺が作成し、他はそれぞれに作成者の名前を示しました。

コラム2の作成にあたり、松前ひろみ氏に内容をご確認いただき、貴重なご助言を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。



アイヌ・先住民研究センターブックレット 15

わりと「縄文」に疲れているアイヌ

北原モコットウナシ・堺由香・富菜雄介

2026年5月5日

発行者 北海道大学アイヌ・先住民研究センター

札幌市北区北8条西6丁目

TEL. 011 - 706 - 2859

印刷 柏楊印刷株式会社

ISBN 978-4-907256-15-9

aynu
teetawanoankur
kanpinuye cise
kapar kanpisos
15

わりと「縄文」に
疲れてるアイヌ